

高 伊那北高校同窓会報

発行
伊那北高等学校同窓会
TEL 0265(72)7312
FAX 0265(76)5585
inakitadoso@giga.ocn.ne.jp
印刷 布マスマタ印刷

定期総会3年ぶりに開催 会長「同窓会の今後」に言及

6月11日(土)、伊那市生涯学習センターにおいて、令和4年度同窓会定期総会を開催した。コロナ禍で3年ぶりの開催となり、参加者約70名。各支部長をお招きしない異例の総会となった。

酒井茂会長は挨拶で、これまでの100周年記念事業(3つの記念行事は総会後開催)への会員の協力に感謝し、とりわけ9年の歳月をかけ完成した「百年史」の編集委員の多大な努力に感謝の意を表した。続いて、本年2月県議会で本校と伊那弥生ヶ丘高の統合が確定したことに触れ、今後ハード・ソフト両面での十分な検討が必要で、その際には生徒の声を尊重したいことや、同窓会として母校教育活動を支援したいと述べた。今



定期総会

後同窓会をどうするかを検討を始めたいと、同窓会の今後についても言及した。

来賓の理橋浩校長は、4月からの新学習指導要領導入に伴い、これまで以上に「探究」学習を重視し、2年次から普通科に文理融合型の「学際コース」を設置したと述べた。

議事で、岩崎靖事務局長から①令和3年度会務報告・決算報告②令和4年度事業計画並びに予算案③創立100周年記念事業予算執行状況等の提案説明があり、すべての案件が満場一致で承認された。

この中で、入学時に各家庭で購入するようになったため、同窓会では1年前倒しして、令和3年度入学生(現2年生)から入学時納入金(入会金5千円、終身会費2万5千円の計3万円)を各年次1万円の分割納入として、各家庭の入学時の負担を分散するようにしたことや、事務局として、統合した他校同窓会を視察したい等の説明があった。

定期総会に先立つ催し物は2つ用意された。

1つ目は、県教委の担当者2名をお招きして「伊那新校

の基本構想について」説明を受けた。校舎づくりについては関係者の要望をよく聞いて設計にあたりたいと述べた。「再編統合は少子化対応か」との質問に「高校再編は少子化もあるが新しい学びの場を作るため」と回答があった。

2つ目は、今村浩信州大医学部教授(高33)による「新型コロナウイルス感染症に立ち向かう」と題する講演。長野県のコロナ感染症治療を最前線で行った経験から、新型コロナウイルスにむけての3点について話された。「今(6月時点)感染者が減少してきたが、病院内の困難さは変わっていない。非常時におけるリーダーシップが重要」と語る。

伊那新校(仮称)開校決定

今年度総会は、企画運営を地元の33回生が担当した。

長野県議会は3月15日、県提出の「伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校との統合」案を賛成多数で可決。県教育委員会は、令和10年4月の新校開校をめざし基本方針に基づき準備を進めることになった。

「伊那新校」 現役生が県教委を招き 意見交換

「伊那新校」を巡り5月22日、高校生による「将来の教育を考える意見交換会」が伊那北高校高志館で開かれた。

1年次から探究学習で高校再編統合問題を調べてきた伊那北高3年の春日碧依さんが主催。高校再編問題に高校生の関心が低く、議論の場が少ないことから他校生にも呼びかけ、会場には3校11名の生徒と県教委の担当者2名も参加。オンラインで配信された。

2部構成で、第1部では伊那北生4人のパネルから、海外とのかかわりへの支援、理系と文系の変更を柔軟にできる仕組みづくり等の提言が出され、県教委の担当者からの回答と参加者の意見交換が行われた。

第2部では2つのグループに分かれ「教育の課題、それを克服するアイデア」を出し合った。現役高校生のリアルな声は、新校を構想するアイデアに溢れていた。



創立100周年記念特集号(2~5面に関係記事)